

平成 29 年 7 月 31 日

浜田市議会議長 西田 清久 様

福祉環境委員会委員長 道下 文男



福祉環境委員会 行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので報告します。

記

1 期 間 平成 29 年 7 月 12 日(水)～7 月 14 日(金)

2 場所及び目的

(1)三重県亀山市

・子ども総合センター事業について

(2)東京都練馬区

・高齢者等ごみ出し支援事業「あしすと」について

(3)東京都葛飾区

・かつしかボランティアセンター

・ボランティア活動推進計画等について

3 派遣委員名

道下文男 足立 豪 柳楽真智子 小川稔宏
平石 誠 濵谷幹雄 西村 健 森谷公昭

4 調査の概要 別紙報告書のとおり

■三重県亀山市

【亀山市の概要】

三重県の中北部に位置し、津市や四日市市、鈴鹿市からは 20km 圏内にあり、年間平均気温は 15.2 度、冬季（1月）の平均気温も 5.6 度と温暖で暮らしやすい気候である。

亀山市の歴史は古く、江戸時代に入って亀山宿、関宿、坂下宿が東海道の宿場町として賑わった中で、亀山宿では亀山城を中心とした街が形成されたことから、城下町特有の町となり、現在の中心市街地の基礎となっている。

明治時代の中頃には、関西鉄道（現・関西本線）と参宮鉄道（現・紀勢本線）が相次いで開通し国有化されたことから、亀山は両線が分岐する鉄道のまちとして発展し、一方、道路については東海道新幹線や名神高速道路など第一国土軸が整備されたため、国土の主軸から外れたが、東名阪自動車道、近畿自動車道紀勢線が整備されてからは、名阪国道や国道 1 号線とも結節して、企業が立地し内陸産業都市として発展してきた。



◎亀山市子ども支援室職員の説明風景



◎亀山市役所にて説明を受ける

【調査概要】

冒頭に、亀山市議会の中村嘉孝議長から市の概要を伺った後、子ども総合センター子ども支援室の室長、宇野勉さん（教育委員会事務局兼務）と主幹の豊田昌子さんから「とぎれない支援」から「子ども支援の一元化」へと題したパワーポイントをもとに説明をいただいた。

健康福祉部の子ども総合支援センターは、子ども支援室と子ども家庭室に分かれており、子ども支援室では子ども相談を担当。子ども家庭室では保育所や認定こども園、子育て支援センターや児童センター、放課後児童クラブなどを担当している。0歳児から 18 歳ま

での切れ目のない支援を行っている。

子ども支援室の成り立ちは、平成17年に厚生労働省が「子ども子育て応援プラン」を打ち出したことから、子ども支援の拠点整備と相談窓口の一元化を目指し、保健・医療・福祉・教育の連携と、途切れのない支援が必要と考えたからである。そして子ども支援室の事業予算の中の措置費等を除いた、児童家庭支援・療育相談・要保護児童対策・女性相談の事業費2,100万円のほとんどが人件費で、この事業が、人対人の情報連携を重視していることを表している。

支援室のコンセプト（概念）は次の4点である。

①機関連携・職員支援

（保険・福祉・教育・医療の連携システム）

②子ども相談・情報（ケースファイル）の一元化

③子どもの臨床についての情報発信・企画・提言

④①から③を実現するための直接面接・ケース相談

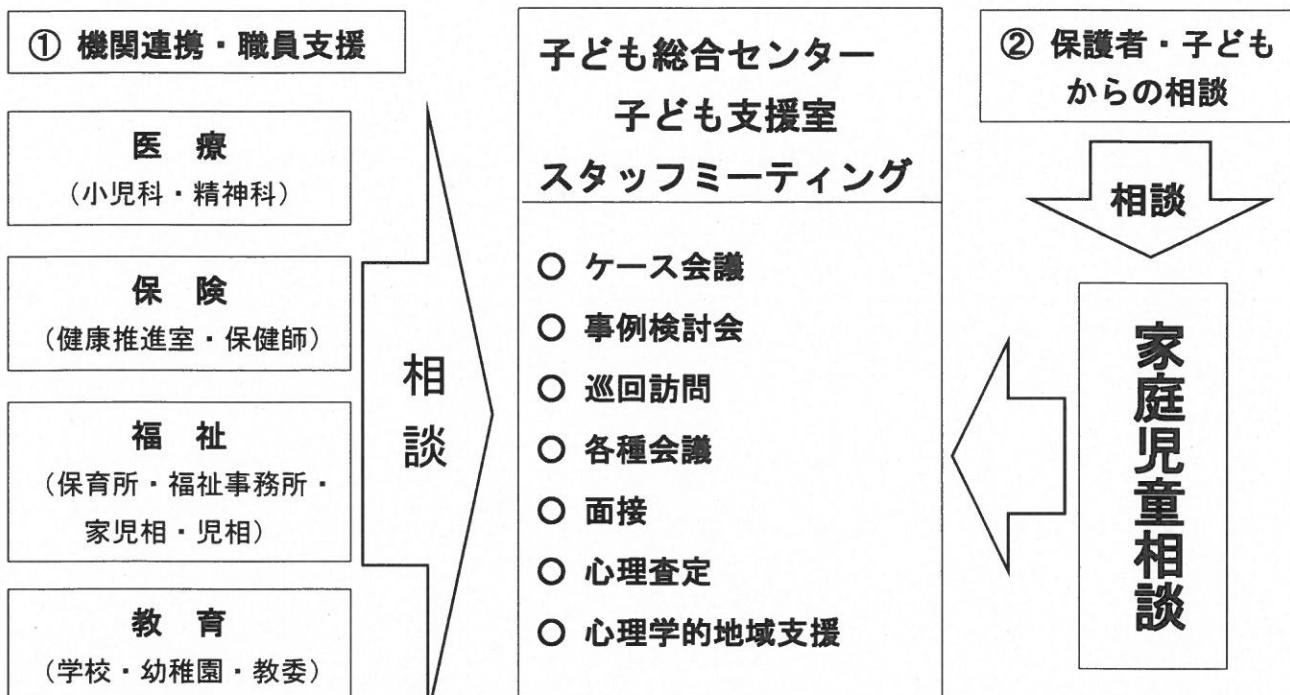
そして、②の子ども相談は聞くだけでは終わらない。対応するためには子どもの情報を、きちんと持っている必要があり、いろいろな部署がバラバラに持っているのでは使えないなどの、情報の一元化を行っている。

職員配置については、教育との連携をどうしていくかということの結論として、部署は市長部局にあるが教育職をたくさん置くことで連携を可能にした。センター長・室長も教育職で、県職員であるが人事交流で亀山市の職員となっている。亀山市の人手からすると担当の職員が多いのではないかと言われることがあるが、事業内容を聞いていただくと、「よくこの人数でやっていますね」と言われる。

職 員 配 置

子ども総合センター	センター長	1名
子ども支援室	室長	1名
ケースワーカー	（事務職）	1名
保健師		1名
指導主事	（教員）（市教育委員会と兼務）	1名
保育士		1名
臨床心理士		1名
女性相談員	（非常勤職員）	1名
心理相談員	（1名非常勤職員・1名臨時職員）	2名
療育担当保育士	（非常勤職員）	3名
事務補助員		1名
家庭相談員	（非常勤職員）家庭児童相談室として同室併置	3名

相談の流れ



ケース会議では、多様な機関の人が出席して、担当者の対応が適切であったかの確認や、相談があった場合に担当者が不在でも、誰もが対応できるように情報共有していく、たらい回しになることが多かったが、窓口が子ども総合センターに集約されたことで、安心して1ヶ所で相談ができるようになった。

また、すぐに駆け付けることを心掛けていて、夜間・土日も対応できるように、室長は24時間365日、お酒は飲まないようにしている。

平成28年度の相談は、児童相談実人数が660人、延べでは1,400件を超えており、相談のピークは修学前後で約15%のフォローを行っており、言語発達障がい等の相談が多く、この部分にしっかり対応しなければいけないと考えている。

市民からは、相談しやすい雰囲気があると好評であり、利用者からの口コミで相談に来る人もいる。そして、児童虐待の相談ダイヤル「189」の啓発にも努めている。

健診で異常を指摘された時の対応として、後日相談に来てもらうのではなく、その場で専門家の相談を受けてもらうようにしている。なぜかというと、あなたのお子さんは課題があるので後日伺わせてくださいと言って帰してしまうと、保護者はとても不安になるのでその場対応している。



◎子ども総合支援センターの外観



◎子ども総合支援センターの館内の様子

【委員からの質問】

質問 相談は保護者からのものが多いのか？

答え 保護者の自発的な相談もあるが、虐待や発達障がいなどは、保育機関や学校の職員に促されて相談される場合や、職員からの相談もある。

質問 夜間保育や家庭保育の取組みはどうなっているか？

答え 亀山市では、夜間保育は行っていない。併せて病後病児保育も大きな課題だと考えている。

質問 室長は24時間、自分の人生をかけて子供たちの利益を守っておられるように感じるが、他にもそのような方たちがいるのか？

答え 主幹もそうであるし、子ども総合センターの正規の職員は全員その覚悟だと思っている。

質問 不登校の問題などは、当事者があまり表に出したくないと言われるとも耳にするが、どのように対応されているか？

答え やりながらでき上がってきたシステムである。とにかく子供の福祉を優先したらこうなった。

【感想】

本庁から離れた場所にある子ども総合センター内には、子ども支援室・子ども家庭室・地域福祉室・地域包括支援センター・子育て支援センター・長寿健康づくり室・障がい者総合支援センター・社会福祉協議会など、複数の福祉関係部署が配置されており、子どもから高齢者までの相談がここで行われている。

本庁から離れているが、利用者の利便性を優先された施設や取組みだと感じた。そして何よりも、子どものことを最優先に取組まれていることが印象的であり、今後子育て支援センターの移転検討の参考にしていきたい。



◎センターの案内



◎亀山市議会議場を訪問

■東京都練馬区

【練馬区の概要】

練馬区は、緑の多い閑静な住宅地であり、最低居住面積水準未満の世帯率は東京23区で最も低い。また、練馬区民の男性の平均寿命は81.2歳で全国第5位、東京23区で第1位であり、刑法犯認知件数は、人口が60万人以上のほぼ同規模の特別区の中で大田区に次いで少なく、総人口は約70万人で、23区中世田谷区に次いで多く、近年は副都心線や大江戸線などの開通に伴って、マンションの建設ラッシュに沸いている。

東映東京撮影所に付随した東映動画が存在したことから、日本のカラー長編アニメの発祥地となり、日本発の30分連続テレビアニメシリーズ「鉄腕アトム」を制作した日本のアニメ産業の礎となった地であり、日本一のアニメ関連企業の集積地でもある。

【視察内容】

◇視察日時：平成29年7月13日

◇調査事項：ゴミ屋敷をなくす「あしすと」システムについて

◇内容

「アシスト」というシステム

○目的：弱った人の家のゴミ屋敷化を防ぎ、良好な住環境を保全する。

○対象：高齢者、障害者のみの世帯及び区が認める世帯。

○内容：担当課が把握→親族の了解→アシストへの依頼→片付け処分を実施。

○処理費：①住居内の分別、搬出は無料 ②廃棄物処理手数料は一袋200円（総計＝4万から5万円）、ただし生活保護者は無料。

○課題：減免対象外の生活困窮者の支援方法。

○その他：本人死亡などの対象外では、①を業者で行い、②を清掃事務所で、臨時ごみとして日程を合わせ早期に収集する。



◎練馬区役所にて説明を受ける



◎練馬区清掃リサイクル課職員の説明風景

【質疑応答】

質問 ゴミ収集の実態は？

答え ごみは事務組合で無料、袋も自由である。

質問 「あしすと」への依頼は誰が？

答え 親族の志望が9割以上である。

質問 事業はどこから発案されたのか？

答え 支援の取り組みのきっかけは係員の提案である。

質問 1世帯の収集量は？

答え 廃棄物は100袋～200袋であり、45ℓ@200円なので 2万円から4万円の自己負担となる。

質問 依頼以外の情報源はどこからか？

答え 1次情報は係員の情報から始まる。

質問 家庭、事業所の一般廃棄物収集業務は、民間委託しないのか？

答え しない。市で行う。

質問 廃棄物処理業者の認可方法は？

答え 認可業者は決定されており、追加認可しない方針である。

【感想】

- ・アパート退去時には、実際に情報を元に生活保護係が行っている。
- ・情報をあげるシステムを作りさえすれば、すぐ出来る。
- ・更に進めて、ゴミ屋敷の強制清掃まで行うべきである。

■東京都葛飾区

【葛飾区の概要】

葛飾区は、東京都の東端にあり、旧利根川・中川などの大小の河川が土砂を運んで形成した沖積層である東京低地に位置している。区の面積は、約 34.84 平方キロメートルあり、23 区中 7 番目の広さで、人口約 45 万 8 千人（平成 29 年 4 月 1 日現在）のまちである。東に江戸川、西に荒川、中央の中川などの河川に囲まれ、かつては湿地や水田の広がる水郷地帯で大正末頃に至るまでは静かな郊外型農村の面影を強く留めていた。昭和の初期から水郷地帯は次第に住宅、工業、商業の都市的形態へと変化し、戦後の混乱期が終わると、都市化・市街化が急速に進行した。

区の産業は、中小製造工業がその中心を担っており、技術力が高く優れた特色を持っている。葛飾百万石の米どころといわれた農業は今も受け継がれ、小松菜・ネギが生産の主となり「葛飾元気野菜」という名で食卓に上がっている。また、人々の生活に密着した約 100 の商店街がある。

区内には、映画「男はつらいよ」の舞台となった全国的に有名な「柴又帝釈天」や漫画「こちら葛飾区亀有公園前派出所」の舞台となった「亀有」、花菖蒲の名所として知られる「堀切菖蒲園」、毎年開催される「葛飾納涼花火大会」などの観光資源が豊富にあり、毎年、多くの観光客が訪れている。

区では、「安心して健やかに暮らせるまち－健康と福祉－」「快適な生活を支える魅力あるまち－街づくりと産業－」「豊かな区民文化を創造しこそむまち－生涯学習とふれあい－」の三つの基本目標を掲げ、「区民と創る元気なかつしか」を基調に、各分野においてさまざまな施策を開拓し、将来像である「水と緑ゆたかな心ふれあう住みよいまち」を目指している。

【葛飾区議会の概要】

議員定数	条例定数 40 人（平成 15 年 6 月 26 日条例改正） 現 員 36 人
正副議長	議 長 安西俊一 副議長 荒井彰一
会派制の有無	会派制あり ・葛飾区議会公明党 ・自由民主党議員団 ・日本共産党葛飾区議会議員団 ・政策葛飾 ・葛飾区議会民進党議員団
議会運営委員会	10 人(条例定数 15 人)
常任委員会	・総務委員会 11 人 ・保健福祉委員会 8 人 ・建設環境委員会 9 人 ・文教委員会 9 人

【視察内容】

◇視察日時 平成 29 年 7 月 14 日（金）10：00～12：00

◇調査事項 葛飾区におけるボランティアの現状とボランティアセンターの支援について

◇内 容

葛飾区ではボランティア活動を支援するための組織として「かつしかボランティアセンター」を平成元年に設立され、平成 17 年から現施設の「ウェルピアかつしか」内で業務を実施している。

平成 25 年 3 月に「かつしかボランティア活動推進計画」を策定し、ボランティア活動を担う人材の育成に重点的に取組まれている。そういった中、平成 29 年 3 月からは第 2 次ボランティア活動推進計画を策定され、第 1 次計画の理念を継承しつつ、区内での活動をさらに広げていくために、①活動を担う人材の育成、②情報収集・発信の強化、③協働・連携の推進の 3 点を事業展開のポイントとして活動へのきっかけづくり、さまざまな活動との連携体制づくり、ボランティアセンターの機能強化、災害ボランティア活動支援などに取組むこととした。

主な事業の取り組みとして、

○ボランティアまつり

活動について、多くの区民に理解され、参加されるよう、日ごろから活動に取組んでいる方々の発表や交流の場として開催。また、多くの区民が体感できるよう情報発信の場として活用。

○ボランティア講座

活動の理解ときっかけづくりを目的とし、講座や具体的な活動を学び体験することでボランティアを養成する講座を実施。

○小学生ボランティア活動体験

小学生とその家族などを対象に、活動への関心を高めてもらうため、活動体験を実施。小さい頃から楽しみながら活動に触れることで将来的に活動に関わる人材の育成に努める。

○ボランティアスクール

活動に関心・興味のある中・高生を対象に、基礎学習や体験学習を実施。福祉やボランティアへの認識を深めると共に、将来の活動者としての人材育成を図る。等々、21 項目の具体的な事業を計画している。

第 2 次計画の策定にあたっては、検討委員会が設置され、特色として、高校生や大学生も委員となっている。



◎葛飾ボランティアセンターにて説明
を受ける



◎介護施設での質疑応答の風景
(東四つ木介護サポートセンター)

【主な質疑応答】

(あらかじめこちらから提示した質問に対する回答)

質問 ボランティアセンターの立上げ経緯は?

答え

- ・ボランティア活動の充実と活性化を図るために、平成元年に葛飾区のウィメンズパル（現男女平等推進センター）に設置された。
- ・区が設置し、社会福祉協議会が施設の貸出業務を受託。
- ・ソフト部分は社会福祉協議会が独自で実施している。

質問 事業や人員の募集方法等はどうしているのか?

答え

- ・生活支援や福祉施設でのボランティア事業に取り組んでいる。
- ・人員の募集は、情報誌、講座、イベントなどのPRや窓口でも実施。

質問 ボランティアが多く集まる背景は?

答え ボランティア活動は盛んであるが、近年は高齢化等で深刻な人材不足である。

質問 対象事業はどういったものか?

答え 活動につなげやすい事業。生活ボランティアや施設ボランティア等。

質問 人員の募集はどうしているのか?

答え 情報誌、講座・イベント等でPRをしている。広報、PRの充実が課題である。

質問 ボランティアの派遣はどうしているのか?

答え 活動によって、紹介のみか先方との調整まで実施している。

【まとめ】

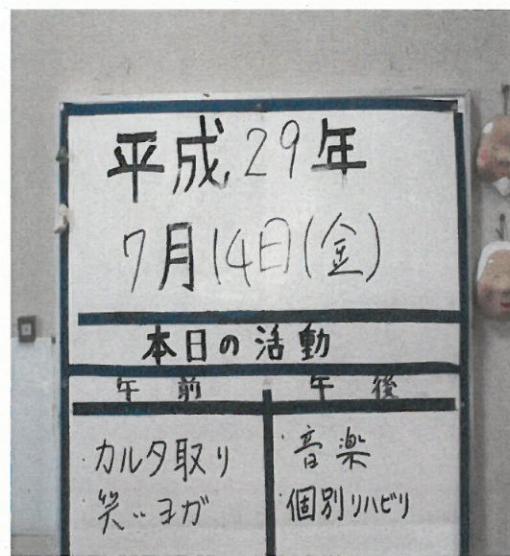
葛飾区では、区民や地域の様々な関係者などの協働により、地域福祉を推進することを目的とし、「葛飾区地域福祉活動計画」を策定されており、それと並行して、「ボランティア活動推進計画」を策定し活動の推進を図られている。この「ボランティア活動推進計画」により、地域の各種団体等や個人がボランティア活動に参加されている実態であった。視察日当日も、視察場所の「ウェルピアかつしか」の一室では、手話ボランテ

イアの育成講座が開講されており、男女を問わず多くの参加者があり、活動が多くの区
民に浸透していることが伺えたところであった。

浜田市においては、葛飾区のようなボランティア活動に関する行動計画等は示されて
いないが、まちづくりの一翼を担っているボランティア活動に対し、支援や推進策を福
祉やまちづくりの両面から考える必要があると感じたところである。



◎介護施設でのボランティア活動風景



◎本日のボランティア活動メニュー